

日本共産党議員団(渡辺 佳正 議員)

市民の要望にこたえた施策の実施及び無駄のない支出であることを評価します。

今後の予算執行にあたって、現残高 49 億円の財政調整基金の有効活用、ユートリオ源泉調査結果を受けての経営判断、市長が発言した歴史館構想の必要性などについて、十分な検討のうえ、積極的かつ慎重に進めるよう要望します。

政経会(村瀬 旬 議員)

事前説明会が行われるようになって、二度目の決算審査特別委員会でした。

決算の内容としては、全会一致で認定でき、平成 30 年度決算の事業成果も問題無いとの認識であります。平成 31 年度(令和元年度)決算も全会一致で認定できるように当局には市民生活向上のために大いに頑張っていたいただきたい。

富岳会(小松 快造 議員)

平成 30 年度決算は歳入が前年に比べ微増の中で、浅間大社周辺や構成資産の整備、地域交流施設の整備や公共施設の長寿命化工事、子ども医療費助成の年齢拡大や公園のトイレ整備とバリアフリー化等、市民の要望が反映された事業が進みました。

今後は新しい工業団地の計画や企業誘致策推進など工業都市富士宮の将来の柱となる長期的・投資的な予算の強化を望みます。

令和(深澤 竜介 議員)

しがらみなく、税金が有効に使われたのかについて、以下 3 つの項目に注目しました。

①オリジナル楽曲作成等業務 265 万円。富士宮市 PR のための曲を作り、CD で配布したとのことであるが、ネット配信等も行うべきではないか。②観光誘客活動委託料 390 万円。新富士駅発着のタクシー商品開発だが、利用実態はどうなのか。③純損失 11 億 2 千万円の病院事業。今後の動向に注視。

公明会(齋藤 和文 議員)

平成 30 年度決算では、学校ブロック塀等改修費、学校の空調設備整備工事費設計費、台風被害による公共施設復旧費、プレミアム付き商品券準備経費の追加など、近年にない緊急性の強い決算が盛り込まれました。

今後自然災害や緊急性の高いものに対し、市役所の万全の体制と、予算と基金の確保が最重要と認識しております。

蒼天(稲葉 晃司 議員)

認第 1 号平成 30 年度富士宮市一般会計、約 24 億 7 千万円の黒字決算には了としました。その反面、富士宮市立病院事業会計における約 11 億 2 千万円の赤字に対し、須藤市長は今後、病院経営上の赤字に対し一般会計から補填していく考えを示したため、令和元年度の富士宮市立病院の収支の改善とこの正念場における須藤市政の手腕に注目します。

芙蓉(植松 健一 議員)

税収はほぼ横ばいで安定しており、財政状況は良好です。また予算執行についても幅広い分野に対してバランスの良いものでした。

総括的に見ると、民生費が対前年度比でマイナスに抑えられたことは、今後の高齢化社会を考えるとプラスの材料ですが、一方、市立病院の事業収益に対する費用の増大が今後の大きな課題となるのではと感じました。

